茨城県ひたちなか市の総合事業について（フィーダーバス実証運行）

計画事業

現況及び課題

○ 廃線の危機に瀕していた茨城交通湊線は，平成20年度から本市が出資する第三セクターのひたちなか海浜鉄道湊線として再出発した。平成20年度の利用者数は前年度を上回っているが，安定した経営を目指すため，引き続き利用促進策を講じていく必要がある。

○ 本市には，国営ひたち海浜公園や那珂湊おさかな市場，阿字ヶ浦海水浴場など集客力を持つ観光地を抱えているが，現状のアクセス手段は自動車に片寄っているため，渋滞時には市民の日常生活に悪影響を及ぼす重大な問題となっている。

活性化の目標・方向性

○ 本市にとって観光産業は基幹事業の一つであるため，自家用車の過度な集中による観光地付近の渋滞の解消や，自家用車を利用しなくても観光地にアクセスできる交通ネットワークの形成を図ることにより，観光地としての新たな魅力付けや入込客の増加を目指すものである。

実施する事業の内容

○海浜公園フィーダーバス実証運行事業（平成21年7月～11月の土，日，祝日）

◆ルート　ひたちなか海浜鉄道湊線阿字ヶ浦駅－－－国営ひたち海浜公園

◆本数　1日14往復

◆運賃　無料

茨城県ひたちなか市　：　総合事業の実施区域

茨城県ひたちなか市の総合事業について（乗合いタクシー実証運行）

計画事業

現況及び課題

○ 本市では，お年寄りや車の運転免許を持たない方の日常の移動手段を確保するため，平成18年からコミュニティバス「スマイルあおぞらバス」を運行している。
○ 一般の路線バスを補完する形でコミュニティバスを運行しているが，道路が狭隘な地区や住宅が散在する地区は，路線の設定が困難なため公共交通の空白地区となっている。このため，路線バス，コミュニティバスを補完する，小型車両を使用した新たな交通システムの導入が必要となっている。
○ 観光面では，那珂湊おさかな市場周辺において，週末を中心に慢性的な渋滞が発生しているが，新たな駐車場の確保や道路の新設は困難な状況にあり，観光客の利便性の確保が課題となっている。

活性化の目標・方向性

○ 公共交通サービスが提供されていなかった地域に，少ない需要でも対応できる新たな公共交通手段を導入することにより，公共交通不便地区の解消を図る。
○ 自家用車の過度な集中による観光地付近の渋滞の解消や，自家用車を利用しなくても観光地にアクセスできる交通ネットワークの形成を図ることにより，観光地としての新たな魅力付けや入込客の増加を目指す。

実施する事業の内容

○乗合いタクシー実証運行事業（平成21年10月～12月）
- ◆ルート1　ひたちなか海浜鉄道湊線那珂湊駅－おさかな市場－海門町地区－那珂湊駅（循環コース）
- ◆ルート2　勝田駅－田彦地区－稲田地区－佐和地区（往復コース）
- ◆本数　1日10便（往復）
- ◆運賃　ルート1：100円，ルート2：200円

茨城県ひたちなか市　：　総合事業の実施区域（ルート１）

茨城県ひたちなか市　：　総合事業の実施区域（ルート２）